

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、木材・木製品製造業、窯業・土石製品製造業で大きく悪化傾向を弱め、家具・装備品製造業では横ばいで推移しました。食料品製造業、出版・印刷・同関連産業、建設用・金属製品製造業、その他製造業で悪化傾向を強めたため、全体としては-60と前期比9ポイント悪化傾向を強めました。売上額は13ポイント減少傾向を強め、収益は1ポイントわずかに減少傾向を弱めました。価格面では、販売価格は3ポイント下降傾向を弱め、原材料価格は5ポイント上昇傾向を弱めました。原材料在庫は2ポイント過剰感を強めました。資金繰りは6ポイント窮屈感が強まりました。残業時間は5ポイント減少傾向を弱め、人手は1ポイントわずかに過剰感を強めました。設備の状況は11ポイント不足感を強め、設備投資を実施した先は機械設備の新・増設、車両を中心に19%と、前期比1ポイントわずかに減少しました。

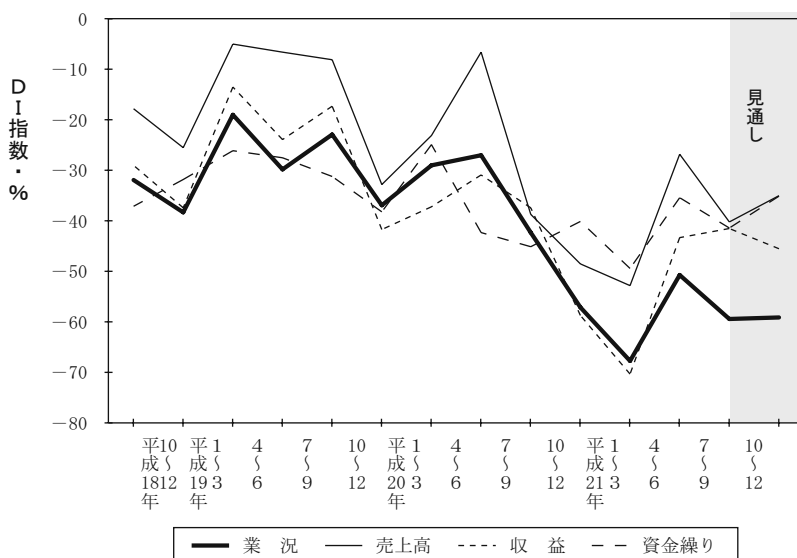
来期の見通し

業況は、木材・木製品製造業、窯業・土石製品製造業で大きく悪化傾向を強め、食料品製造業はわずかに悪化傾向を強めるとみえています。一方、家具・装備品製造業で大きく悪化傾向を弱め、出版・印刷・同関連産業、建設用・金属製品製造業、その他製造業で悪化傾向を弱めるとみえているため、全体的には、来期-59と悪化傾向をわずかに弱めるとみえています。売上額は5ポイント減少傾向を弱め、収益は4ポイント減少傾向を強めるとみえています。価格面は、販売価格は今期に続き13ポイント下降傾向を弱め、原材料価格は3ポイント上昇傾向を強めるとみえています。原材料在庫は過剰から不足に転じるとみえています。資金繰りは7ポイント窮屈感が弱まりそうです。残業時間は2ポイント減少傾向が強まり、人手は10ポイント過剰感が弱まるとみえています。設備の状況は1ポイントわずかに不足感が弱まり、機械設備の更改を中心に13%の先が実施の予定とし、今期に比べて6ポイント減少するとみえています。

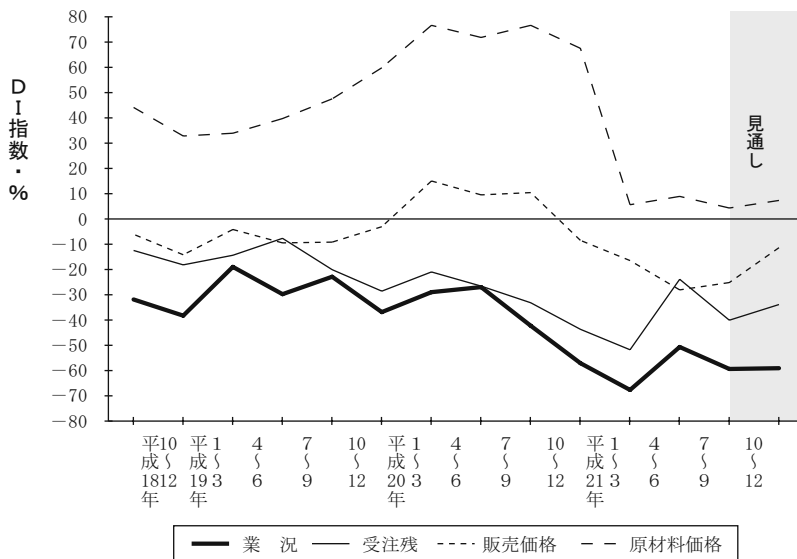
調査員のコメント

- 売上は横ばいであるが、材料費の高騰分を価格に転嫁できず利幅は減少している。新商品開発等で売上増を図る。(和洋菓子製造業)
- 受注減少にともない収益も減少気味。機械化の推進に努め、生産能力の向上およびコスト削減に努めれば問題ない。(精密機械器具製造)

景況の推移



主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(21年7月~9月) / 前期(21年4月~6月)

		△100	△90	△80	△70	△60	△50	△40	△30	△20	△10	0	10	20	30	40
食料品	業況	○ ← ●														
その他製造業	業況	○ ← ●														
出版・印刷・同関連産業	業況	○ ← ●														

経営上の課題点	1位	売上の停滞・減少(1)	73%
	2位	同業者間の競争の激化(3)	37%
		利幅の縮小(2)	37%

当面の重点経営施策	1位	販路を広げる(1)	70%
	2位	経費を節減する(2)	49%
	3位	情報力を強化する(3)	26%

*()は前回順位